

OS の管理者権限のパスワード変更時の影響および変更手順

対応バージョン

SSC2.0 / SSC2.1

概要

管理サーバ/管理対象マシン/仮想マシンサーバに関して、OS の管理者パスワードを変更した場合の影響度と、設定変更手順を記載します。

[SystemProvisioning]

[管理] ビュー

1) [ユーザ]

影響: 無し

SystemProvisioning のアカウントは Windows のアカウントと独立しており Windows アカウントのパスワード変更には影響を受けません。

2) [サブシステム]

(1) VMware VirtualCenter

影響: あり(管理サーバの OS の管理者パスワード)

VirtualCenter のプロパティ画面では、SystemProvisioning が利用する、VirtualCenter のアカウント/パスワード情報を入力します。

VirtualCenterのアカウントは、VirtualCenter がインストールされたマシンの OS のアカウント情報をそのまま使用するため、パスワードが変更されれば、SystemProvisioning で設定した VirtualCenter のパスワードを変更する必要があります。

(2) VMware ESX Server

影響: あり(仮想マシンサーバの OS の管理者パスワード)

ESX Sever のプロパティ画面では、SystemProvisioning が利用する、ESX Server のアカウント/パスワード情報を入力します。

ESX Server は root アカウントを使用するため、ESX Server の root パスワードが変更されれば、SystemProvisioning で設定した ESX Server のパスワードを変更する必要があります。

(3) Web サーバ for DPM

影響: 無し

DPM のアカウントは Windows のアカウントと独立しており Windows アカウントのパスワード変更には影響を受けません。

3) [環境設定]

(1) [仮想リソース] タブ

影響: あり(仮想マシンサーバの OS の管理者パスワード)

VMware ESX Server の障害復旧 (フェイルオーバー) 時に使用される ESX Server の root パスワードを設定します。

サブシステムの VMware ESX Server のプロパティ画面でも個別に設定できますが、個別に設定されていない場合は、こ

の設定がすべての ESX Server に対する既定値として使用されますので、パスワードを変更した場合は、必要に応じて設定が必要になります。

[運用] ビュー

1) [グループ] プロパティ

(1) [OS 設定] タブ

影響: あり(管理対象マシンの OS の管理者パスワード)

管理対象マシンの OS のアカウント/パスワードを登録する必要があります。

【DeploymentManager】

[管理サーバ側]

1) Web サーバ for DPM

影響: 無し

2) 管理サーバ for DPM

影響: 無し

DeploymentManager のアカウント([設定]-[管理者パスワードの設定])は OS のアカウントと独立しており、OS アカウントのパスワード変更には影響を受けません。

[管理対象コンピュータ側]

影響: 無し

管理対象マシンの OS のパスワード変更が、Web サーバ for DPM、管理サーバ for DPM の動作に影響を及ぼすことはありませんが、別途、以下の注意事項がございます。

<DPM をご利用に当たっての注意事項>

http://www.nec.co.jp/middle/WebSAM/products/deploy_win/faq2.html

全バージョン共通

ドメイン参加について

【ESMPRO/ServerManager】

影響: 設定により影響あり(管理サーバの OS の管理者パスワード)

アカウント/パスワードを変更しても、その権限(所属グループ)が変わるわけではないため、特に作業は必要ありません。

但し、マネージャ通報(TCP/IP Out-of-Band)を使用している環境で、宛先設定に使用しているマネージャ側のユーザ名およびパスワードが変更になった場合は、マネージャ通報の宛先設定で接続ユーザ名とパスワードの再設定を行ってください。

【SystemMonitor 性能監視】

影響: 設定により影響あり(管理サーバ/管理対象マシン/仮想マシンサーバの OS の管理者パスワード)

以下の場合、SystemMonitor 性能監視で設定しているパスワードを変更する必要があります。

1) SystemMonitor 性能監視の性能監視サービスの実行アカウントのパスワードが変更される場合

【設定の確認方法】

- (1) SystemMonitor 性能監視の管理サーバ上で、[スタート]メニューから、サービススナップインを起動します。
- (2) 右ペインにサービスの一覧が表示されますので、"SystemMonitor Performance Service"を右クリックし、[プロパティ]を選択します。
- (3) プロパティダイアログが表示されますので、[ログオン]タブを選択します。
- (4) 設定されているアカウントが対象のアカウントであるかどうか確認します。

#デフォルトは"ローカルシステムアカウント"となっているので、変更の必要はありません。

【設定の変更方法】

- (1) 上記のプロパティダイアログから実行アカウントのパスワードを変更します。
- (2) サービスを再起動し、正常にサービスが開始されることを確認します。

サービス実行アカウントの詳細については、以下の項目を参照ください。

SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド

2.5 性能監視サービス実行アカウント

2) SystemMonitor 性能監視の管理コンソールで性能監視サービスとの接続アカウントのパスワードが変更される場合

【設定の変更方法】

- (1) SystemMonitor 性能監視の管理コンソールを起動します。
- (2) ログオンダイアログが表示されますので、変更後のアカウント情報を入力します。
- (3) [OK]ボタンを押下し、性能監視サービスとの接続が成功することを確認します。

管理コンソールからの管理サーバ(性能監視サービス)への接続についての詳細は、以下の項目を参照ください。

SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド

2.5 性能監視サービス実行アカウント

3.1 管理コンソールの起動と管理サーバへの接続

3) SystemMonitor 性能監視の監視対象マシンのパスワードが変更される場合

【設定の確認方法】

- (1) SystemMonitor 性能監視の管理コンソールを起動します。
- (2) 管理サーバのアイコンを右クリックし、[環境設定]を選択します。
- (3) 環境設定ダイアログが表示されますので、[接続]タブの接続アカウントが対象のアカウントであるかどうか確認します。

【設定の変更方法】

上記ダイアログの接続アカウントを変更することで 対象マシンからの性能データは収集可能となりますが、上記ダイアログの設定は、管理サーバで管理している監視対象マシン全てに対して有効な設定となります。したがって、上記の設定変更を実施しますと、その他の管理対象マシンに対する接続に利用するアカウントも変更されることとなりますのでご注意ください。

グループ毎、マシン毎に接続設定を実施している場合は、それぞれのグループ、マシンで設定を確認し、設定変更する必要があります。

監視対象マシンへの接続についての詳細は、以下の項目を参照ください。

SystemMonitor 性能監視ユーザズガイド

1.7.2 監視対象マシンへの接続設定

作成日 : 2008/06/30

作成日 : 2009/03/13